

あおぞら



NPO 法人 あいかわ工房
広報 VOL.64 2024.1.1
編集 あいかわ工房編集委員会
発行責任者 熊谷直丈
ホームページ あいかわ工房 [検索](#)
TEL 046-281-1157

謹賀新年

甲辰 元旦



本年も宜しくお願い致します

NPO 法人 あいかわ工房

足柄峠より photo by n.kumagai

年頭のご挨拶

新年あけまして

おめでとうございます

年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年は皆様のご支援、関係機関のご指導のもと無事一年を過ごすことができましたこと厚く御礼申し上げます。

本年はあいかわ工房がNPO法人の登記をしてから十八年・就労継続支援事業所の認可から十五年の節目の年になります。多くの先輩、身障協会の方々と設立当初より携わらせて頂きましたが、あつという間の十八年でした。

最初から通所いただいている利用者の方が何人も居られることは本当に有難く、新たに来られた皆様も長く通って頂いております。

これから皆様が社会の一員として自立した生活が出来ますように職員一同決意を新に業務に邁進いたします。

皆様の更なるご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

NPO法人 あいかわ工房

理事長 熊谷 直丈

令和五年元旦

業務継続計画

温暖化による異常気象のために豪雨や豪雪又は異常渇水・洪水やがけ崩れなど自然災害はごく身近に次から次へと発生しています。

また、中国で最初に発生したと言われている、コロナウイルスの蔓延は全世界に広がり、各国で多くの死者が出ており、一旦は下火になったと思ったのも束の間、依然として根絶に至るところか変異を重ねて我々を襲ってきます。

更に温暖化で、永久凍土に凍結したままだった何万年も前のウイルスが、解凍されて、今までの薬剤では効かないようなことになるのでは、との説も科学者から発信されています。

そのような異常事態になった時、どのように業務を継続してゆくか、対策のための組織づくり、備えるべき設備・備品・食料など細かに整備をしています。

利用者の皆様と一緒に意味を理解して、訓練を重ねて行きたいと思っています。また、ご家庭やご近所との連携も密に取れるよう、皆様にもご協力をお願いいたします。

安全推進委員会

業務の効率化と職員

利用者の皆様には適応訓練のため、いろいろなお仕事を企業様から頂いて作業をして頂いています。その売り上げは皆様に工賃としてお支払いしております。

少しでも多くの工賃をお支払いできるように、職員は材料の供給や回収に動き回っております。しかし、重いコンテナを持ち上げるのには、相当な体力を要します。一定の高さまで積載面を上げられる、テーブルリフターを購入しました。これにより持ち上げる量は僅かですが、スライドして積み替えることができて負担を多少軽減することが出来ました。さらにいろいろな面で負担が軽くなることを取り入れたいと思います。

現在サービスマン等と共に支援員目標工賃達成指導員等五名の職員が居りますが全員が長期に勤務して貰って、昨年の福祉大会で七年以上の表彰を一人が頂いて、全員が七年から十五年ものベテランとなりました。

利用者の皆さんが健康に通って頂くためには、職員が健全な身体と健全な精神を持つことが大切です、健康管理は勿論福利厚生も充実させて参ります。

命の重み

愛川町立愛川中学校

3年

天野 あまの結菜 ゆな

今、私達が生まれてこれたのはどうしてだろうか。ある日、家の本棚で日記を見つけた。その日記は「育児日記」。中を見てみると、そこには母が書いた、私の乳児期から幼児期にかけての頃の様子がびっしりと書かれていた。私がまだ生まれる前のエコー写真と妊娠中の日記も書かれていた。その日記を読んでいたら、ふと頭に少し前の記憶が蘇ってきた。いつか母に言われた言葉。

「あなたは他の子と違って、たくさん時間をかけて苦労して生んだ子なんだよ。」と。

私は今まで命の重みについて真剣に考えることはあまり無かった。この世界に生まれてきたのは当たり前のようなものだと思っていた。最近、虐待や殺人に関するニュースをよく見かけるようになった。まだ生まれて間もない乳児や小さい子供が、親の虐待によって亡くなってしまったり悲しくて残酷なニュース。また、自分と歳の近い子が、いじめが原因で自殺してしまうという報道を目にする。そんな時、命の大切さを感じさせられる話を母から聞いた。

私の両親は、子供ができにくい体で自然妊娠は難しいと言っていた。約十八年前、両親は私を産むために、約三年半の間、病院に通い続けた。そこで、両親は不妊治療という治療を始めた。中でも最終手段である「顕微授精」という技術的に一番高度な手術をしたそうだ。今では不妊治療は保険が適用されるが、当時はまだ保険が適用されなかった。一回の治療だけで数十万かかったと聞いた時には驚いた。経済的な負担だけでなく、

体力的にも負担がかかる。この治療をするにあたって、様々な種類の薬を飲み、副作用と闘う。余程強い気持ちがないと挫折することもある。また、その治療をしたら必ず妊娠できるわけではなく、一回平均二十パーセントから三十パーセントの確率と言われている。一度妊娠しなければ体を一、二ヶ月休ませる必要がある。まるでギャンブルのようなものだった。両親は一回の治療では成功できなかった。それでも諦めず、何度も治療を繰り返したそうだ。そして二〇〇七年の夏、「私」という命を授かった。

この話を聞いたら自然と涙を流していた。長い間苦勞し、私をこの世に迎えてくれたことに感謝と嬉しきで胸がいっぱいになった。私が生まれてからも、一つひとつの成長を喜んでくれていて、両親の愛情をたくさん感じても育ってきた。きっと、どの家庭もそうなのかもしれないが、それが当たり前でない家庭が現実ではたくさんある。

虐待や殺人の報道を耳にすると、どうしても簡単に命を奪ってしまうのだから、授かりたくても簡単に授かることのできない人たちが約六組に一組の割合でいると言われているからだ。それなのにこうした残念なニュースを聞く度、この人たちの気持ちも分かっている。欲しいのにと思う。この世からいじめや虐待、差別などの人権問題がなくなるといっては簡単なことではないと思う。だからといって許されるわけでもない。親から授かった命を自ら絶つたり、自分の手で殺人を犯すということを絶対にして欲しくない。

それに、この先長い人生がある子供の命を奪って欲しくない。子供は親を必要としているのに、そうやって傷つけて良いのか。些細なことがたつた一つの命を簡単に奪う。こんなことがあって良いのだろうか。自殺、殺人は良くないと口では簡単に言えるが、そうやってしまう原因を作らないことが大切だ。いじめではいじめられている人、いじめられている人を見てみぬふりをせず、お互いを大切にしよう。さらに相談する人が一人でもいるだけで、命を奪われる原因は少なくなると思う。こうして、一つでも多くの尊い命が救われ、悲しいニュースを耳にすることがなくなっていきたい。

私になにかできることがあるかと言っても、この社会を変えるような大きなことはできないだろう。見て見ぬふりをせず、多くの人に寄り添って話をする。私ができることは、こんな小さなことだ。けれど、こんな小さなことでも救われる命があるのなら、私はたくさんの人に寄り添っていききたい。そして、私を産んでくれて育ててくれた両親、今まで支えてくれた人、たった一つの命に感謝の気持ちを忘れずに生きていきたい。

生まれてきた人みんなが平等に愛され、平和に過ごす権利があるから。

この文章は令和五年十二月十日の人権の日に神奈川県に掲載された第5回中学生人権作文コンクールで神奈川県最優秀賞5人の中から愛川中学の天野さんの作品です。

ご本人の許可を得て転載させて頂きました。



10 月生まれ



11 月生まれ



12 月生まれ

みんなの時間・屋外研修

毎月第一金曜日の午後は、『みんなの時間』として、時期に応じてのイベントやボランティアの方に来て頂いての演奏などを楽しんで頂けるようにしています。

この時間は楽しむだけでなく、皆さんが何かのテーマに沿ってお話をして貰い、自分からの発信力を付けて頂く、またほかの人の発言を聞いて、『人によって受け取り方が違う』ことを実感して頂く機会にもなっています。

屋外研修は、年度内二回の福祉バスの使用が出来ましたので、今年度は9月に河口湖方面に行きました。次は3月14日に申し込み抽選の結果決まりました。

行く先はこれから決めますが、団体行動での決まり事や、工房での仕事では判らなかつた皆さんの違った一面などを楽しみに、また目的地についての豆知識などをお伝えしたいと思っています。

高齢や障がいでの生活のちょっとした困りごとのある方にお手伝いをする『あいちちゃんサービス』が活躍しています。

9月の屋外研修には4名の方に皆さんのサポートをして頂きました。あいちちゃんサービスの皆さんは手際よく対応して下さい、助かりました。

年末には引木さんと斎藤さんから素敵な折り紙とカードやお菓子をくれたクリスマスプレゼントを全員に頂きました。

編集後記

愛川中学の天野さんの書かれた「命の重み」を神奈川新聞で拝見し、大変心を打たれました。学校へ伺い、教頭先生からご本人とご家族に許可をとって頂き掲載させて頂きました。

昨年末に小学校一年生の時のクラス会を閉じることになり、8名ほどが集まりました。皆夫々に歳をとりながらも、話すうちに何十年も昔に戻るものですね。終戦直後の何も無い時代、校舎も焼けて、早番・遅番の二部授業。その時の先生も一昨年100余歳で旅立たれました。友の何人もが父親が戦死や未帰還、家族と共に大陸からの引き揚げ者など、苦しい生活を味わって来ました。

世界では各所で戦争があり、子ども達そして何の罪もない多くの人達が犠牲になっています。

戦争の無い七十九年を過ごしてきた日本、銃弾や震災で命が失われることのない日本です。どうか互いを理解し合い、相手を敬う気持ちを忘れず、どんなに苦しくても必ず楽しい時のあることを信じて、命を大切にしましょう。

今年も皆様にとって素晴らしい一年になりますように心よりお祈り申し上げます。

